

## <内容>

専門職（精神科認定看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）によるひきこもりの相談支援、家族心理教育（家族教室）、訪問支援、居場所の確保、精神科医等のスーパーバイザーの確保。（ふらっとコミュニティに業務委託）

## <実績>

	相談支援利用者数	家族心理教育開催数・延参加者数	訪問支援利用者数・延件数	居場所設置利用者数・延回数	日中一時支援事業移行者数・延回数	受診に結びついた件数	復職・復学・進学者数	利用者への個別対応又はグループ活動	精神科医等スーパーバイザーの確保	一般就労※
H30年度	来所 155 人 電話 563 件	49 回 延 432 人	6 人 延 30 件	21 人 延 747 回	5 人 延 161 回	10 件	2 人	60 回	2 回	11 人
R元年度	来所 138 人 電話 501 件	60 回 延 472 人	5 人 延 25 件	34 人 延 977 回	10 人 延 384 回	2 件	1 人	115 回	1 回	6 人

※福祉就労は含まない。

## 《その他 PR 活動等》

ひきこもり支援フォーラムの開催。テレビでのひきこもり特集への取材協力。

## <評価>

H30 年度、テレビ等を通じた広報活動により H29 年度 99 件だった相談件数が急増。R 元年度に入り、相談は月 10 件程度に落ち着いてきた。R 元年度は、相談に来られた人の継続支援のため、家族心理教育の開催回数を増やし、家族への支援を強化。結果、アウトリーチをしなくても居場所へ出てこられる人が増えた。

当事者への支援を強化するため、各種研修会に参加し、スタッフの資質向上、スキルアップに努めた。またパソコン教室（延 117 名参加）や WRAP（元気回復行動プラン：延 15 名参加）等のプログラムを充実させることで、就労に向けての準備支援を強化。就労スキルや就労意欲が向上し、一般就労へ結びついた。

## <今後の具体的な取り組み>

- (1) 家族会「陽の杜」運営サポート、家族支援の強化  
家族会の自主的な活動の発展に向けて、今以上に家族を支援していく。
- (2) 当事者による相談制度、UFE（ウッフエ）の推進  
当事者自身がひきこもり経験者として、自らの経験をもとに当事者からの相談を受ける UFE を推進し、相談体制の充実をはかる。
- (3) 不登校児童・生徒の家族支援、教育機関との連携強化  
ひきこもり予備軍である不登校児童・生徒に対し、早い段階で教育機関と連携し、家族支援を通じた包括的なケアの実践をめざす。
- (4) ひきこもり者への居場所設置事業（プログラム等）の充実  
ストレスマネジメントやソーシャルスキル等、各種プログラムを定期的で開催し、居場所から社会復帰へつながるよう、支援内容を充実させる。
- (5) ひきこもり者への就労体験・準備支援  
直ちに一般就労を目指すことが難しいひきこもり者に対し、アウトリーチ等による継続的な個別支援を実施するとともに、若者サポートステーション等関係機関と連携し、地域において対象者が馴染みやすい就労体験先を開拓・マッチングする取組を行う。